



東中だより

No. 05 令和8年 8月31日（月）余市町立東中学校 発行

校訓…「進取」「利他」

学校教育目標

- 自律…自ら考え判断し行動する
- 尊重…多様性を受け入れ対話し解決する
- 創造…豊かな発想で新たな価値を生み出す

「もしも」を自分ごとに

教頭 青 柳 由 美

このたび、熊本県を中心に発生した地震、千葉県や北陸地方で発生した豪雨や大雨などにより被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。国内外で大規模災害が相次いでいることに、驚きとともに、災害の恐ろしさを改めて感じています。一日も早い復旧・復興を心より願っております。

先日の北海道新聞朝刊に、避難所から学校に通う中学3年生のインタビューが掲載されていました。「いつもどおりの生活ができない分、学校では当たり前の生活を送りたい」という言葉が心に残りました。災害によって、当たり前の生活がいとも簡単に失われてしまう。だからこそ学校は、子どもたちの命を守ることを最優先にしながら、安心して学び、友達と関わることでできる日常を守るとともに、災害後には一日も早く学校を再開し、子どもたちが日常を取り戻せる場所でありたいと強く思いました。

先日、道内でも大雨や線状降水帯が発生し、本町でも石狩方面の空に何度も稲光が見えました。天気予報アプリにも、その時間帯の余市町の天気予報に「嵐」と表示されており、驚くとともに校内の点検を強化しました。幸い、本町には被害はありませんでしたが、その光を見ながら、「災害は決して遠いところの話ではない」と改めて感じました。

7月上旬に実施した余市町学習状況調査では、「災害時の避難場所について、お家の人と話し合ったことがありますか」という問いに、「ある」と回答した本校生徒は56.4%でした。半数を超えている一方で、約4割の生徒は、家族で避難場所について話し合ったことがないという結果です。

本校では、9月2日に「一日防災学校」を実施します。1年生は「マイ・タイムライン」、2年生は「避難所運営ゲーム」、3年生は避難所設営に取り組みます。また、防災週間には、実施日時を事前に知らせない避難訓練も予定しています。こうした学習や訓練を通して、自分の命を守るだけでなく、周囲と声を掛け合い、協力して行動する力を育てていきます。

9月1日は「防災の日」、8月30日から9月5日までは「防災週間」です。学校での学びをきっかけに、ぜひご家庭でも「災害が起きたら、どこに避難するのか」「家族が別々の場所にいたら、どうするのか」など、「もしも」のときについて話し合ってもらえればと思います。いざというときに「知っている」「決めている」ことが、自分や家族の命を守ることに繋がります。

防災は、特別な日にだけ考えるものではありません。遠くで光る稲光を「災害は遠いところの話」と捉えるのか、「自分たちにも起こるかもしれない」と捉えるのか。その意識の違いが、いざというときの行動を変えるのかもしれない。

「もしも」を自分ごとに。

学校での学びを家庭や地域での備えにつなげ、学校と家庭、地域が共に子どもたちの命を守る力を育んでいきたいと思っています。今後とも、本校の教育活動に対しまして、深いご理解と温かなご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。